

「ネットワークコミュニティにおける学習・教育支援」 特集号の発刊にあたって

柏原 昭博

(電気通信大学大学院情報理工学研究科, 学会誌編集委員会委員)

近年, SNS (Social Networking Services) をはじめとして, ネットワーク上のコミュニティを支援する技術の進展は著しく, コミュニティのための高度な学習・教育支援を提供できる可能性が飛躍的に高まってきた。実際, 代表的なプラットフォームであるWeb上に, さまざまな規模・目的をもつ学習・教育支援環境の実現が試みられている。こうしたネットワークコミュニティ支援環境の開発・研究は, 技術的な側面だけではなく学習・教育コミュニティをいかにデザインすべきか, コミュニティをいかに存続させるかといった根本的な問題から, コミュニティの実践・評価に至るまで幅広く多岐にわたって進められている。

本学会においても, 2007年からSNS新技術創造委員会(現在の新技術開発・活用委員会)においてSNSを中心とした学習・教育コミュニティの支援に関するワークショップや研究会を企画し, ネットワークコミュニティ支援として必要な技術および実践方法や評価等について検討を進めてきた。また, 2010年3月13日畿央大学において, 今回の特集号に先立ち特集研究会を実施した。16件の発表があり, 事前に研究会委員会および新技術開発・活用委員会からいただいた査読コメントをもとに, 非常に有意義かつ深い議論を行ってきた。

以上のような経緯のもと, ネットワークコミュニティにおける学習・教育支援に関するシステム開発・実践を共有するとともに, 今後幅広い視点からの研究の推進を目的として, 解説および論文特集号を企画した。

解説特集では, ネットワークコミュニティにおける学習・教育支援を, (1) 支援の要素技術, (2) 支援

システム, (3) 実践・評価, という三つの観点から眺めることができるようにその内容を構成した。まず, 長谷川忍氏(北陸先端科学技術大学院大学)・柏原昭博(電気通信大学)には, ネットワークコミュニティのための学習・教育支援技術について解説していただいた。ここでは, ネットワークコミュニティのサステナビリティを高めるためにユーザ間の人間関係, コミュニティ知, プレゼンスの三つをソーシャルキャピタルとみなしてこれらを獲得・増大させることが重要であるとの観点から, 学習・教育支援の要素技術を分類しており, 支援技術の活用について示唆に富む内容となっている。

松浦健二氏(徳島大学)・中村勝一氏(福島大学)には, SNSを用いた支援システムについて解説していただいた。この中では, 代表的な支援システム開発事例を取り上げながら, システムの支援機能を整理するとともに, ネットワーク分析およびコミュニケーションの二つの観点からシステム設計・開発に関する検討項目を詳細に整理している。また, それらの項目を踏まえて, どのようにコミュニティ支援システムを設計すべきかについて指針を与える内容となっている。

村上正行氏(京都外国语大学)・山田正寛氏(金沢大学)・山川修氏(福井県立大学)には, SNSを活用した教育・学習の実践および評価について解説していただいた。ここでは, SNSを用いた実践ではコミュニケーションの設計が重要であることを指摘し, コミュニケーションの構成要素をフォーマル・インフォーマル情報, 対面・非対面, コミュニティ規模に分類している。また, この分類に基づいて代表的な実践例を分析することで, SNSを用いた実践の指針を与えようとしている。また, 評価についてはネットワーク分析に